



# もり 森林の風

特定非営利活動法人  
森林の風  
会長 奥田 義巳  
2009. 9. 11. 発行

第1号

## だより

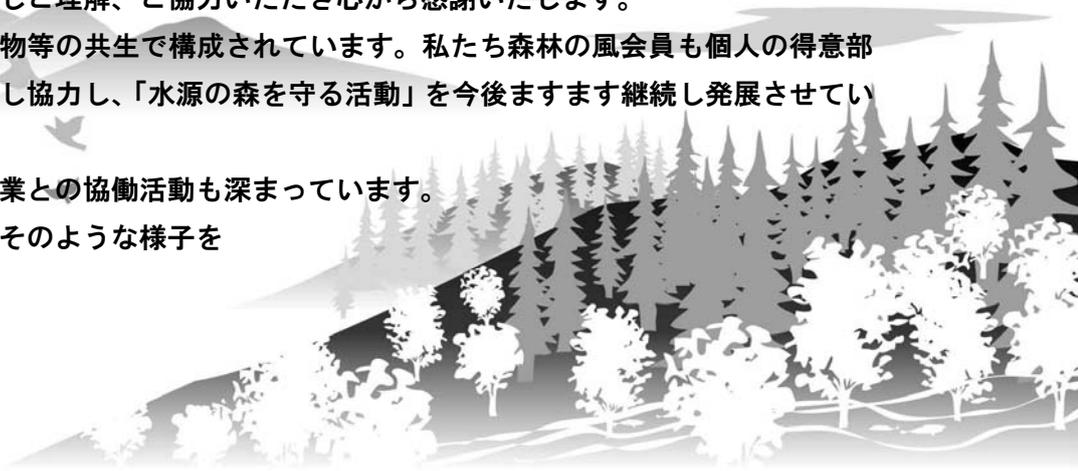
機関紙創刊にあたり

“森林の風”は設立5年目を迎えています。このお便りを手にされたみなさま方には、日頃よりわたくしたち森林の風の活動に対しご理解、ご協力いただき心から感謝いたします。

森林は、多くの樹木や野生生物等の共生で構成されています。私たち森林の風会員も個人の得意部門や知識アップの探究心を生かし協力し、「水源の森を守る活動」を今後ますます継続し発展させていく所存です。

最近では、学校、自治体、企業との協働活動も深まっています。

この「森林の風だより」ではそのような様子を  
どんどんお伝えしていきます。



### — 目 次 —

今月のお客さま	KOA 森林塾からのメッセージ ~創刊によせて~	2	
会員の広場	文化	森林にまつわる映画	2
	報告	そうだ、葉っぱを売ろう	3
	会員の日々	百姓2年生	3
[ side1 植物図鑑 / side2 森林の風 定期活動地近況報告 ]			
事務局だより	最近の活動 / 今後の活動予定	4	
編集後記にかえて			



**SIDE1. 植物図鑑**

二つずつ位なら・・・。

**シキビノシキミ(楡)**

高さ:2~5メートル  
 葉:長楕円形・互生  
 花:白・3~4月  
 特徴:枝や葉に香りがあり「抹茶臭い」という言葉の語源。供花。  
 全草にアニサチンなどの有毒成分が含まれる。そのため「悪しき実」とされ、名前のいわれになっている。



向井 F1の森にたくさん生えています。

**ヌルデ(白膠木)**

葉:葉軸に翼がある  
 花:8月~9月・円錐状に黄白色の小さな花  
 特徴:葉に虫が寄生すると虫嬰(ちゅうえい)ができる。タンニンを多く含むため昔はお歯黒や白髪染めの原料として利用された。ふつうは被れないが、虫嬰を触ると被れる人もある。



(一部)会員は葉軸の翼を「エンガワ」と呼びなっています。

ふきこむ風

今月のお客さま

創刊によせて  
KOA 森林塾からのメッセージ

今、あなたの身近な森は元気ですか？緑の繁る近接地域の森林も、その人工林に近づいてみると、中は暗く、木は細く弱々しい。どのくらいそんな状態が続いていて、現在の健康度はどうなのか。これからどのようにして手入れをしていけばいいのか・・・。

あなたも、森づくりの入り口への扉を叩いて、森林の診断や間伐の考え方、チェーンソーの使い方といった基本的知識や技術を手に取ってみませんか。

うちなる風

会員の広場

文化 Culture 森林の情報あらかると

◎映画Ⅰ 映像詩「里山」が9月より全国ロードショー

海外で数々の賞を受賞しているNHKドキュメンタリー「里山」が、映像詩「里山いのち 萌ゆる森」として上映される。「里山は、人間と自然の共生が紡いできた一遍の壮大な叙事詩である。人と自然の跡の調和が失われつつある美しさ、同時に未来のあるべき姿を映し出す」(<http://satoyama.gyao.jp> 公式ページより)。

近隣では、名古屋の伏見ミリオン座 (<http://www.eigaya.com/theater/million/>) で9月に上映される。

◎映画Ⅱ 映画「火天の城」も9月より

本年度の直木賞作家山本兼一の小説「火天の城」が映画化された。小説自体は「熱田の宮番匠である岡部又右衛門が、織田信長から総棟梁として安土に七重の城の建設を命ぜられる。大和六十六州の職人たちを安土に集結させ、前代未聞の巨大な城造りを指揮し、波乱万丈の末、威容を誇る安土城を完成させる」内容である。この小説の森林との関係は、城の天柱となる大檜を木曾上松に求める岡部又右衛門の“総棟梁魂”と、木曾檜の全てを差配する大庄屋甚兵衛の“もり 杣の頭魂”との気迫迫る立会いにある。「木曾上松小川じやこう 股麁香沢の麁香の薫りがする樹齢 2500 年の御霊木」「お伊勢様の式年遷宮に用意してある御備木」「根元の太さが五尺」「一寸百目と云われる糸柱(一寸の幅に百本の緻密な年輪)」「太さ一尺五寸角、長さ八間の大通路おとおしほしら 四本」「算盤そろばん 棧手きでを滑らせて曳く」「木曾川寝覚ノ床を流す」等々の言葉が飛び交う。これらの場面が、映画ではどのように演出されるかが興味深く、楽しみである。

9月に、109シネマズ四日市やジストシネマ伊賀上野で上映される予定である。(公式ページは <http://katen.jp/>)

【伊坪】

## 報告 Report そうだ、葉っぱを売ろう

今年(平成21年)の1月に徳島市から山の中へ車で1時間程入った徳島県  
 上勝町の「<sup>いろどり</sup>彩事業」を見学する機会がありました。その報告です。

上勝町は面積110km<sup>2</sup>、内86%が山林で、そのうち83%が杉を主体とした人工林で、かつては林業とみかん栽培で栄えていた。集落は標高100mから700mの間に点在しており、昭和30年の6,265人をピークに毎年減少し、平成20年には2,014人高齢化率は49%、過疎と高齢化が同時進行している、四国で1番小さな町である。

昭和56年2月、マイナス13度という極地的な異常寒波に襲われ、特産のすだちやみかんが枯死寸前となり農業は大打撃を受けた。

これを契機として町の活性化のため始まったのが「彩事業」。彩とは紅葉、柿、南天、椿の葉っぱや、梅、桜、桃の花などで、料理のつま物の材料として商品化したもので、今では70代80代のおばあちゃんたちが売上高2億6千万円のビジネスを支えている。専用PCにより市況、出荷、分荷、出荷目標などの情報提供できるシステム作りを町、農協が進めたとはいえ、成功のカギは着目と販売網確保の努力の賜物と思われる。

彩事業を推進した横石知二代表取締役は、京都の料理屋で、隣で食事をしていた娘さんが、つま物の紅葉を取り上げて「まあ、これきれい」と言ったのにヒントを得、「そうだ、葉っぱを売ろう」と思い立ったという。

今では高齢のおばあさん、お金儲けに忙しく、医療費問題も、介護問題も、年金問題も、少子高齢化問題もぜんぶ解決したとか???

【松永】

## 会員の日々Essay 百姓2年生

父が2年前までやっていた稲作を私が行うようになり2度目の秋を迎えました。今年は7月の日照不足で、せっかくのコシヒカリも日陰の場所は1m近くの丈になるものもありおじぎで追肥せず自然のままにしておいたほうがよい結果でした。いつもの倍の作業時間がかかります。4月18日に田植えし、いま(8月下旬)稲刈りの時期です。平成7年式のコンバイン(補修部品なし)なので、おとなしく、スポーツジムで筋トレをするような気分で機械と付き合ってます。中学生のころから田植え稲刈りはしてましたが、土づくり、水管理は素人で奮闘し続ける2年です。

また、今年はボーイスカウトの希望で昔の米づくりで、手植え、手刈り、はさ懸け、足踏み脱穀で収穫のプログラムが進んでいます。30坪の田圃ですが、この米が一番うまいかも……今年はいいい秋になりそうです。

鈴鹿の山並がきれいな毎日です。皆さん頑張りましょう。

【市川】

### SIDE2. 活動近況

矢の峰の進捗状況です

矢の峰における活動は今年から始まりました。測量して、プロットして、選木して、間伐して…



空が見えて光が入り始めました。



樹間はどうでしょう？

9月の1週目は枝打ちと搬出でした。



女性もがんばってます。

「なかなか下草が生えてこーへんなぁ」などと話しながら、さわやかな風吹き抜けるここ矢の峰の森で食べるお弁当は格別です。

## 事務局だより

## 最近の主な活動

## —みえぎん まなびの森での活動—

8月22日(土)

参加者 三重銀行・・・14名 森林の風・・・6名

\* 整地、門柱の設置 \* 「みえぎん まなびの森」の看板作成  
\* 昼食兼懇親会(暑気払い)



## —まちのきこり人育成講座・中級編—

8月23日、29日、30日の3日間

1日目:参加者14名(会員8名)のこぎり間伐・枝打ち体験  
2日目:参加者12名(会員6名)歩道作り・植樹体験  
3日目:参加者13名(会員7名)チェーンソーを使ってみよう



枯れることも食われることにもマケズ・・・植樹  
鹿害対策をいろいろ試しています。

## 今後の主な活動予定

## 講師の派遣

◇◆今回も森林の風が多度山に出動。10月の3日間、桑名市主催の「多度山の健全化をめざす森林ボランティア入門講座」で、山でのマナー、安全対策から選木、のこぎり間伐、林内整備などの講師をします。

## 企業との協働

◇◆10月25日(日)「みえぎん まなびの森」オープニングイベント 三重銀行森林倶楽部と森林の風との協働による、森林保全活動が本格始動。この日は看板序幕、シンボルツリーなどの記念植樹を行います。

◇◆10月31日(土) 本田技研工業(株)鈴鹿製作所の森林保全活動 森林の風発足以来8回目を数えます。

※ 森林の風 基本の定期活動・・・

第1・第3土曜日 → 矢の峰 / 第1・第3日曜日 → 向井F1 / 第2・第4日曜日 → みえぎん まなびの森

## 編集後記にかえて

## 「爽やかな風になって森に入ろう」

瀧口邦夫

「森のマナーとルールを守りプロの技術や知識を持つグループを作らないと森林を再生し水源の森を守ることはできない」との思いからNPO法人を設立しました。

その際、森林施業は有償を基本とし会員の持ち出しをなくし活動費を得ることが、長期継続を可能にする判断しました。また、殆どの森林活動グループが、レクリエーション的森林活動を中心とした啓蒙活動を進めているなか、実践との両輪で動く必要性を強く感じていました。私のスタート頃、KOA島崎森林塾、速水林業塾、1ターンミーティング、鈴鹿森林組合グループワーク講習会や県主催の森林活動講習会に参加して得た結論かもしれません。

活動が本格化していき、計数的に森林を整備すると目

的や達成感を感じることができます。当然、会員の知識と技術アップが必要となり「まちの木こり人育成講座」が始まりました。実践、勉強を繰り返しながら、無事5年目を迎えることができ、このたび機関紙を発行することにもなりました。

これまで指導してくださった外部講師の方々の森林に対する情熱には敬服するばかりです。会員の皆さんが森林再生の情熱を持ち、積極的に運営に関わり得意の分野で自主的な活動が出来ると自然環境はますます良くなるでしょう。

50年100年先の豊かな森林を未来に残すために爽やかな風になって森に入りましょう。